

## 第1回情報交換会（R6.10.8）及び意見等記入票での主な意見等

## 1 目指す人財像・学校像

第1回情報交換会での発言	意見等記入票で寄せられた意見
<p><b>【目指す人財像】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 社会貢献に取り組むとともに、主体性や他者を尊重する心、社会の発展を担うような幅広い視野を持った人財。</li> <li>○ 地域の現状を理解し、地域の課題発見とその解決に向けて主体的・協働的に取り組むことで、地域の発展的な展望に寄与する人財。</li> <li>○ 工業分野における専門知識・技術、正しい工業倫理感を身に付け、職業人として新たな価値を創造し、より良い地域社会を実現しようとする人財。</li> <li>○ 国際社会で通用する能力やグローバルな視点を有し、地域社会や地域経済の活性化、産業の持続的な発展に貢献するとともに、国内外に情報を発信する能力を備えた人財。</li> <li>○ 自立した工業人として新しい時代を生き抜く起業家精神と起業家的資質・能力を備えた人財。</li> <li>○ ふるさを愛し、ふるさを知った上で、社会で活躍できる人財の育成。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分の軸はしっかり大事にしながら、それぞれの違いを認め、他者を尊重できる人財。</li> </ul>

第1回情報交換会での発言	意見等記入票で寄せられた意見
<b>【目指す学校像】</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 探究型の学習活動など、地域や社会にある課題の解決に向けた実践的な取組により、郷土を愛する心の醸成、主体的に課題を解決する能力、地域に価値を見出し、地域ブランドを確立する能力を育成する学校。</li> <li>○ 地域企業や研究機関、自治体との産学官共同による実践的な学びを通して、確かな専門知識・技術や工業人として工業倫理感、高度な資格の取得に向けた効果的な指導体制と環境の充実による実践的専門知識の習得、未知の領域へ果敢に挑戦し、新しい価値を見い出そうとする能力を育成する学校。</li> <li>○ 教科横断的学習活動や、総合学科と工業科の横断的学習活動の充実を通して、共感的理解の実践、多様性の尊重、異文化や価値観の理解、語学力とコミュニケーションスキル、マーケティング知識・スキル、情報モラルを含む情報収集及び処理能力を育成する学校。</li> <li>○ アントレプレナーシップ教育の充実を通して、起業家精神と起業家的資質・能力、校内のキャリア教育の充実、小学校・中学校・高校の継続的なキャリア教育の地域拠点と地域の活性化、社会の課題や困難に対し、自ら主体的に働きかけ、新たな価値を見い出す力を育成する学校。</li> <li>○ 工業科の生徒が総合学科の授業を履修して、ライセンス取得するなど、学科・系列の枠を超えて、生徒が履修できるような学校。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 大湊高校、むつ工業高校と同様に、進学・就職に強い学校。</li> <li>○ 大湊高校、むつ工業高校両校の良いところを組み合わせた学校。</li> <li>○ 異なる分野を目指す生徒たちが交流することで、自身の資質向上をしながら、協力し合い、物事を成し遂げられる力を学べる学校。</li> <li>○ 統合対象校のスクール・ミッションを取り入れつつ、一人一人の個性や考え方を大事にする学校。</li> </ul>

## 2 特色ある教育活動に関すること

第1回情報交換会での発言	意見等記入票で寄せられた意見
【引継ぎが考えられる教育活動】	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域のことを知る取組は、継続していく必要がある。斗南藩やジオパークなど様々な歴史を学ぶことにより地域に愛着を持つことができる。</li> <li>○ 大湊高校では、探究活動として、1年次に地域を支えている企業の方々取材するなど、地域について学ぶとともに、起業家に必要とされるマインドや資質・能力を養うため、起業家教育にも取り組んでいる。 2年次には、下北ジオパークについて学ぶ活動をしており、東通エリア、大間・仏ヶ浦エリア、恐山・薬研エリア、大湊・川内エリアの4つのコースに分かれて、自然観察や施設見学、インタビュー活動を行い、自然、産業、文化などについて学んでいる。 3年次には、1年次・2年次の活動をまとめ、自分のテーマを設定し、研究成果をポスターで発表しており、このような探究活動は統合校でも継続したい。</li> <li>○ 大湊高校の「外まなび部」では、コンクールや講演会、ボランティアなど様々な活動に参加している。また、「外まなび部」では、下北の学校5校による「下北BOUSAIネットワーク」の活動を行っており、これらの取組は統合校でも継続したい。</li> <li>○ 資格取得、特に、第三種電気主任技術者の認定条件を目指した授業等を継続したい。</li> <li>○ 地域との交流や地域への貢献、企業・研究機関との連携による共同開発などは統合校でも継続したい。</li> <li>○ こどもの数が減っている中において、地元に基づいてもらうためにも、成果発表などの魅力的な取組については、今年度以降、大湊高校、むつ工業高校の両校において、中学校へ出前授業を行うなど、地元の高校を知ってもらうとともに、統合校においても継続して実施してもらいたい。</li> </ul>	

第1回情報交換会での発言	意見等記入票で寄せられた意見
<b>【新たに考えられる教育活動】</b>	
<p>○ 総合学科と工業科の連携や併置によるメリットを生かした学科・系列等の横断的な学びにより探究型学習活動の充実と深化を図る。</p> <p>○ 学科・系列の専門性や系統的な教育活動を基本としつつ、以下のような教科・科目の履修選択の枠組みを検討することも考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 健康福祉系列の福祉コースと工業科の連携により、ユニバーサルデザインや地域の医療福祉分野に関する調査研究などの実施。</li> <li>・ 情報ビジネス系列と工業科の連携により、情報コースにおいて、資格指導の充実や、情報技術分野の知識・技術の高度化によるビッグデータの解析・活用方法などの実施。</li> <li>・ ビジネスコースと工業科の連携により、多面的な地域課題を発見し、課題の解決に向けてものづくり教育でつくり上げた製品を活用して、地域ブランディング力や、地域の魅力を外部に伝えるマーケティング力を育成する取組。</li> <li>・ 自然科学系列と工業科の連携により、製品の共同開発、試作、データ分析を行い、それを生かした製品開発に繋げるといったものづくりの一連の学習。</li> </ul> <p>○ キャリア教育の充実として、実践型のインターンシップの拡大や、地域の小学校・中学校・高校による系統的なキャリア教育の構築など、統合対象校両校が持っているキャリア教育の指導力の融合によって、指導方法の充実と、生徒の多様な進路への対応が可能となる。</p>	<p>○ 文化祭等で工業科の生徒が作製したものを総合学科の生徒が販売する活動。</p> <p>○ 工業科と総合学科が統合することによる利点を最大限取り入れた教育活動に期待したい。</p>

### 3 その他に関すること（参考となる資料、会議全体を通じた意見等）

第1回情報交換会での発言	意見等記入票で寄せられた意見等
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 就職の面接指導を地元の経営者が行うなど、地域の会社や人との関わりを増やしてほしい。</li> <li>○ 就職に関しては、アントレプレナーシップをどのように教育するのかというのは非常に大切である。</li> <li>○ 中学生が統合校に進学することにより、何を学ぶことができるのか、どのような進路選択ができるのかということを確認にし、理解できるような形にする必要がある。</li> <li>○ 地元の企業が求めている資格や技術などを考慮した上で、学科を検討してほしい。</li> <li>○ 小学校・中学校・高校の連携を通して、総合学科としての特色や、工業科としての特色を明確に中学生に伝えることができる。</li> <li>○ 教育活動の充実のためには、学科・系列を超えた教科・科目の履修に加え、近隣の高校との連携による教科・科目の設定や、オンラインでも単位取得できる制度が必要。</li> <li>○ 地域が求めている人財を育成するために開設する教科・科目と中学生の進路選択との間にミスマッチがあり、このミスマッチを防ぐためにも、小・中学校において、地域の状況や、高校での学びをこどもたちに理解してもらう必要がある、小・中学校との連携等を強化していく必要がある。</li> <li>○ 他地区の市町村への通学を行う場合には、2時間以上かかることを踏まえると、地区内で学びの充実を図る必要がある、そのことを念頭に置きながら、教育活動等について考えていく必要がある。</li> <li>○ 現在、下北地区に設置されている定時制課程は、田名部高校だけであるが、定時制課程に進学する中学生が増えてきている。また、工業を学びたいが、全日制課程への進学は難しく、田名部高校の定時制課程の普通科に進学している中学生もいることから、統合校に工業科の定時制課程を設置することで、中学生のニーズに対応できるのではないか。</li> <li>○ 統合校については、遠方からも通学する生徒が増えてくることも考えられるため、寮などの環境整備も必要になってくると考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ すでに両校とも創意工夫された教育活動を行っており、地元の中学生にPRし、知ってもらい、興味を持ってもらう必要がある。</li> <li>○ 統合校に移行する際に後輩がいない学年や先輩がいない学年が発生すると思われる。生徒の高校生活3年間を考えた場合、マイナスの影響があるように思う。</li> <li>○ 学校規模・地域格差を超えた多くの科目履修と単位取得が可能となるよう、遠隔授業の活用モデル校として指定してほしい。また、校舎建築に当たっては、遠隔授業を可能とする施設・設備の整備に努めてほしい。</li> <li>○ 他地区の職業教育を主とする専門学科を有する高校へ赴いての集中実習による単位・資格取得の実施。</li> </ul>

#### 4 検討内容に関する質問事項等

検討内容に関する質問事項等
<ul style="list-style-type: none"><li>○ 統合対象校が募集停止後、2 学年、1 学年だけとなると学校行事や部活動が制限されることから中学生が選択しなくなることも考えられる。これまでの統合事例における対応について確認したい。</li><li>○ 両校の部活動や生徒会活動、学校行事等これまでの伝統をどのように引き継いでいくのか。</li><li>○ 部活動に関して、統合された場合どのように進めていくのか。</li><li>○ ハード面について不安な部分があるため、情報交換会の中で議論したい。</li><li>○ 統合校がむつ工業高校のグラウンドに建設されることから、むつ工業高校の生徒と統合校の生徒の部活動の活動場所が、むつ工業高校の校舎を解体するまでの間、不明確である。</li></ul>